

## はじめに

東京家政学院生活文化博物館は開設 30 周年を超えて、さらなる歴史を刻もうとしています。昨今の未曾有な社会状況により、これまでのように自由な来館や見学を歓迎することも叶わず、感染症対策などの制限がかかる場面がありました。が、そうしたなかでも積極的に企画展や特別展を開催し、千代田三番町ならびに町田の両キャンパスにおいて充実した内容を公開できました。また、実際に来館の機会が制限される一方で、本大学法人のホームページや広報物を通して今日的な主題を提起できましたのもご周知の通りです。さらに、こうした媒体ではお伝えできない内容の詳細につきまして、この年報からより深いご理解を賜われましたら幸いです。

さて、本号では、令和 2 年度企画展「収蔵品 - 30 歳になりました!」、 「収蔵品 - 30 歳になりました! Part2」、令和 2 年度特別展「復興から未来へ～博物館と地域のこれから～」などのほか、「学生成果展」や「教員研究成果展」といった企画展の内容を収録しました。特に、2011 年の東日本大震災により被災した博物館資料の修復プロジェクトを扱った特別展の展示研究報告では、このテーマが導かれた経緯や資料構成など、活動の実態にせまる報告を紹介しています。博物館実習を履修する学生や教員、学芸員が陸前高田市に赴き、借用資料を検討するストーリーは、特別展を支える本館の社会的役割を実践した記録として着目して頂けるのではないのでしょうか。

また、学生や教員が共に学んだ価値ある記録として、「学習成果報告」や「教員研究報告」などが並びます。このように、つねに本学にかかわる人びとの学びや生き方が財産となって時代の履歴に刻まれるように願い、今後とも年報を一層充実させていきたいと存じます。そのためにも、より多くの方々にご意見ご支援を賜りたく、何卒よろしくご意見申し上げます。

2022年3月

東京家政学院生活文化博物館館長  
立川 泰史